

公益社団法人

全国学校栄養士協議会報

令和4年8月
第80号

発行

公益社団法人
全国学校栄養士協議会
電話 03 (6380) 4360全学栄ホームページ <https://www.zengakuei.or.jp/>

長引くコロナ禍中での本協議会事業運営ですが、会員の皆様にはご協力・ご支援をいただいております、心から御礼申し上げます。

去る5月26日、田中 信名誉会長がご逝去になり、皆様大変悲しいお知らせをしたところです。名誉会長は、本協議会の設立発展・学校栄養職員の義務教育国庫負担法組み入れ、そして悲願の栄養教諭制度創設と幾つもの歴史的節目に立って、多大な尽力をされました。そして、一貫して、深い情熱と揺るぎない信念をもち、本協議会を今日まで導いていただきました。

ここに、深い哀悼の意を表しますとともに、長らくのご指導に心から感謝申し上げます。

亡くなられます3日前、名誉会長をお訪ねした折、「会長、子どもたちは元気？頑張ってる？」とお聞きになりました。名誉会長にとって「子どもたち」とは、全国の栄養教諭・学校栄養職員の皆さんのことであり、元気で職務についているかと問われたのです。このように、名誉会長の胸には、常に栄養教諭・学校栄養職員のこと・日本の学校給食の充実発展のことなど、私たち会員への深い深い思いがありました。

名誉会長のお言葉を借りれば、「道半ばで産み落とした栄養教諭制度」への心残りが常におありでした。そして、栄養教諭が確かな位置づけをもって、全ての学校において活躍できる日の来ることを切に願い、ご指導をいただいております。

私たちは、この名誉会長の思いをしっかり受け継ぐ必要があります。今、「栄養教諭でなければならない」「栄養教諭だからできる」職務を明らかに示しながら、改めて、栄養教諭のあるべき姿を見つめなおす時に立っています。

本協議会では、栄養教諭・学校栄養職員の資質向上を目指す講習会等において、何を身に付けるか、ゴールをより明確にした運営にシフトしていきます。皆様、積極的に参加いただき、研鑽を積み、名誉会長の意思にお応えできるよう努力してまいりましょう。

会長 長島 美保子

～本協議会名誉会長 田中 信先生に、 深く哀悼の意を表します～

★田中信名誉会長経歴

- 昭和 36年 11月 全国学校栄養士協議会設立会長
- 昭和 49年 9月 社団法人全国学校栄養士協議会会長
- 12月 義務教育費国庫負担法組み入れ決定に尽力
- 平成 4年 6月 社団法人全国学校栄養士協議会名誉会長
- 平成 16年 5月 栄養教諭制度創設に尽力
- 平成 24年 4月 公益社団法人全国学校栄養士協議会名誉会長

★受賞

- 昭和 59年 4月 藍綬褒章 受章
- 平成 4年 11月 勲四等瑞宝章 受章



〈目次〉

- 栄養教諭配置効果に関する調査研究報告書について……………2～3
- 各部の報告……………4～5
- 助成事業報告……………6
- 食育調査官 就任ご挨拶……………7
- 第64回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会（鳥取県）のご案内 ……7
- 都道府県だより……………8

栄養教諭配置効果に関する 調査研究報告書について

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

食は、人間が生きていく上での基本的な営みの一つであり、子供たちに対し、食に関する正しい理解や適切な判断力、望ましい食習慣を身に付けさせることは、学校において食育を推進する上で非常に重要であると考えます。しかし、食を取り巻く社会環

境が大きく変化した中で、健全な食生活を実践することが困難な場面も増えてきており、例えば、偏った栄養摂取や不規則な食事等の食生活の乱れなどが見られ、増加しつつある生活習慣病と食生活の関係も指摘されております。

栄養教諭の配置効果に関する調査研究（令和3年3月）

○目的

栄養教諭が中心となつて行う個別的な相談指導に関する客観的な成果を明らかにするとともに、配置効果をわかりやすくまとめたリーフレット等を作成することで、栄養教諭の活用及び配置促進につなげる。

○調査方法

有識者ヒアリングを踏まえてヒアリング事例を選定。
また、ヒアリング結果を踏まえて、栄養教諭の配置効果について整理。

肥満・やせ傾向にある児童生徒

偏食のある児童生徒

スポーツをしている児童生徒

食物アレルギーを有する児童生徒

の4つの分類に対して…

栄養教諭の配置効果
を御存知ですか？

—様々な課題に対する相談指導—

令和3年3月
文部科学省

栄養教諭による

①個別的な相談指導による
効果

②テーマごとに実施している
個別的な相談指導内容と
その手法

を取りまとめた。

また、栄養教諭の配置促進
に向けて、学校関係者（校
長、養護教諭等）からも、
栄養教諭が学校に配置され
ていることによる効果を聴取。

URL:

[https://www.mext.go.jp/
content/20230127-mxt_
kenshoku-000020214-2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230127-mxt_kenshoku-000020214-2.pdf)



こうした中、これからの社会を生きる子供たちが、栄養バランスの良い食事の大切さを理解し、望ましい食習慣を形成して、食に関する自己管理能力を身に付けることは、生涯にわたり健康な生活を送るための礎として、極めて重要であると考えます。

食育は、学校のみならず、家庭や地域と共に取り組むことが必要となるため、教育に関する資質と栄養に関する専門性を有する栄養教諭には、食育の中心的な推進役として、大きな期待が寄せられています。食育をより一層推進していくため、自治体、学校関係者、保護者を含めた幅広い層に栄養教諭の役割や有用性について理解してもらうことは非常に重要です。

このため、文部科学省では、栄養教諭の活用及び配置促進につなげるため、令和2年度委託事業において、栄養教諭が中心となって行う個別的な相談指導による成果、その内容と手法、学校関係者から聴取した栄養教諭の配置効果等について調査研究を行い、令和3年3月「栄養教諭の配置効果」に関する調査研究報告書」をとりまとめました。

本調査研究では、個別的な相談指導の事例に関する栄養教諭からのヒアリングのほか、学校関係者(校長、養護教諭等)からも、栄養教諭が学校に配置されていることによる効果を聴取しました。以下に概要を紹介します。

○学校内における効果

- ・食や栄養についての専門的な知識を持つ栄養教諭が食育の授業を担ったり、学級担任とともに給食の時間における食に関する指導を行ったりすることで、全教職員の共通理解の下、組織的な食育の取組が行われるようになった。
- ・これまで、学級担任だけでは好き嫌いのある児童生徒に対して効果的な声掛けができない等の問題があったが、栄養教諭が実際に給食に用いられている食品を見せたり、献立の工夫について説明したりすることで、児童生徒の日常的な食事へ

の関心や、栄養のバランスを考えた食事のとり方の理解を一層深めることとなった。また、栄養教諭の指導方法を参考にすることで学級担任の給食時の働きかけも向上した。

○家庭における効果

- ・継続的な食育だより等の発行、PTA 開催の食育に関する研修会での講師、児童生徒への直接的な関わりによって、児童生徒自身の意識が変化したり、実際の食生活が変わったりする様子から、食育の取組に関心をもつ保護者が増加した。
- ・保護者自身の意識や食生活を変えることが難しい面もあるが、食に関する学校の課題や家庭の取組事例の紹介、提供した給食のレシピの掲載等、情報を発信することで、親子で食について考える機会が増え、日常生活で実践する家庭が増加している。
- ・学校と家庭との双方向の情報共有をすることにより、児童生徒の家庭内での実態を把握することもでき、よりきめ細やかな指導を効果的に行うことができる。

このように、栄養教諭は、学校全体の「食育」の意識の向上や食に関する行動の改善に欠かせない存在であることが本調査研究により明らかになりました。

文部科学省としましては、引き続き、栄養教諭の配置促進、栄養教諭の魅力を発信することで、活躍の場を増やしたいと考えております。

栄養教諭・学校栄養職員の皆様方におかれましては、子どもたちの健やかな成長のために、今後とも、各学校における食に関する指導と学校給食の管理に専門性を発揮され、学校と家庭や地域が連携した食育の推進に向け、御尽力を賜れましたら幸いです。

末尾となりましたが、貴協議会の御活動が益々発展されますことを、心より祈念いたします。

総務運営部

総務・運営部は、会の運営に関する事項全般を所管しています。

- 総会、理事会、都道府県代表者会の運営
- 事業推進、予算、決算
- 全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会の主催（文部科学省と共催）
- 各種検討委員会の運営
- 関係団体への協力
- ホームページの開設運用

1 第49回定時総会

6月10日（金）、ハイブリット開催による定時総会が行われ、令和3年度事業及び収支決算の報告、令和4年度正会員・賛助会員の入会金及び会費の件、理事の選任について審議等、すべて承認されました。

2 第63回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会

8月4日（木）5日（金）、大分県大分市において、文部科学省、開催地の教育委員会と共に、学校における食育推進と栄養教諭・学校栄養職員の資質向上に向けオンラインによる研究協議を行い、全国大会を主催しました。

3 栄養教諭のためのカリキュラム検討委員会

令和4年度は、教科等と連携した子供たちが身に付けたい資質・能力を食育の視点に沿って、教科等における食に関する指導の指導展開例 中学校編を作成予定です。



研究部

研究部は、児童生徒の健康増進及び食育推進に関する調査研究と栄養・衛生・安全管理の徹底を図る事業を担当しています。

1 「地場産物活用や食文化継承のための体験学習」実践研究事例集の作成

令和元年度に実施した「食育推進アンケート」では、共食や手伝いを実践している児童生徒ほど、食材の産地に関心をもち、郷土料理や伝統料理を知っていることや、食材の産地に関心をもちている児童生徒ほど、地域でとれた食材を使うことの大切さや郷土料理や伝統料理を引き継ぐことの大切さを理解していることが検証されました。

この結果を踏まえ、令和3年度に「地場産物活用

4 食育月間事業

第17回食育推進全国大会（愛知県常滑市：6月18日～6月19日）に参加しました。その他、国の施策や他団体と連携して食育活動を行っています。

5 関係団体への協力

春のキッズフェスタ（「早寝早起き朝ごはん」全国協議会開催：5月28日）に参加し、ワークショップとパネル展示、啓発資料の配布を行いました。（秋のキッズフェスタは中止です）



6 ホームページの充実

(<http://www.zengakuei.or.jp>)

本会事業の紹介や調査研究結果等を開示しています。

令和4年4月1日より、利用しやすいホームページとするためにリニューアルを行いました。

や食文化継承のための体験学習」をテーマとした事例を全国から集めました。今年度は事例集を作成します。地場産物を活用した取組の増加等、食育推進にご活用ください。

2 研究授業方式による衛生管理研究会

令和3年度に各都道府県から報告された衛生管理研究会の事例の中から、参考になる取組と共に、地場産物を活用するための工夫事例を紹介します。各施設での衛生管理の徹底、安全安心な学校給食の提供に向け、お役立てください。

研修部

研修部は、会員のための各種講習会の運営を行っています。

1 各種講習会

今年度、食育推進講習会（データ解析・論文コース）は対面による講習を予定しています。夏季講習会と食育推進講習会（一般コース）はインターネットによるWEB配信で行います。

- 第58回学校給食夏季講習会「初めて学ぶ、学びなおす」

到達目標：栄養教諭として教材化の視点に立った献立作成や調理指導ができる。食に関する指導の全体計画に基づいた指導を推進することができる。

期日：7月16日(土)～17日(日)

- 食育推進講習会 一般コース「研究的思考を身に付ける」

到達目標：栄養教諭としてのスキルアップを図り、専門性に基づいた指導に生かすことができる。実践研究に向かう研究的思考を身に付ける。

期日：11月12日(土)～13日(日)

- 食育推進講習会 データ解析・論文コース「データを活用し発信する」

到達目標：データ解析をし、献立や食に関する指導の評価を行うことができる。栄養教諭としての取り組みを実践研究としてまとめ、発信できる。

期日：10月28日(金)～30日(日)

2 食育に関する調査研究等に対する助成事業

食育に関する研究を行うグループに10万円の助成を行っています。助成を受けたグループの研究成果は、この会報の紙面での発表を予定しています。



渉外部

渉外部は、機関誌の発行と学校給食用食品の開発、食育活動集の作成を行っています。

1 機関誌「公益社団法人 全国学校栄養士協議会報」の発行

会報は8月と2月、年2回発行しています。本協議会の活動報告、各種大会の案内や報告、有識者の先生方からいただいた原稿、都道府県だより等をお届けします。

2 学校給食用食品の研究開発

(1) 災害時における非常食の開発

救給カレー、救給根菜汁、救給コーンポタージュ



(玄米入り)、救給五目ごはん(もち玄米入り)はライフラインが途絶えた中で救援物資が届くまでの「いのちをつなぐ」非常食として開発されました。自然災害だけでなく、不測の事態や防災教育等にも活用されています。

今年度は、新規開発した災害時非常食(野菜の煮物)をご紹介します。

(2) 全学栄製品及び全学栄すいせん製品の選定と献立研究

既存の全学栄製品などの紹介や改善検討、開発を行い、学校給食献立充実のための調理講習会や親子料理教室をとりまとめています。

3 学校給食週間行事の推進

全国で実践されている食育活動を収集し、事例集を作成します。今年度は令和3年度版を発行します。

助成事業報告

◆児童の朝食摂取状況に基づく異なる対象者への朝食指導介入による教育効果の検討◆

静岡県学校給食栄養士会 栄養教諭朝食指導調査研究部代表 塩崎 泰乃

児童の朝食において、栄養のバランスのとれた朝食を摂ることが現在の最重要課題になっています。そこで、本研究では、異なる対象者（児童と保護者、児童のみ、保護者のみ）にバランスのとれた朝食教育介入をそれぞれ実施し、異なる対象者における朝食教育効果を検証することになりました。

調査対象者は、県内の小学校5年生とその保護者(各551人)としました。朝食介入は、1か月間とし、その後にアンケート調査を実施しました。朝食介入事前アンケートにより、学級単位でランダム化比較試験を実施しました。朝食介入を児童と保護者双方に実施するA群、児童のみのB群、保護者のみのC群、実施しない対照群のD群の4群に群分けをし、同じ内容の朝食教育介入を児童へ3回(授業1回と授業前後の給食時間の指導2回)、保護者へは3回(印刷教材配布)を行いました。A群からD群間の群間の差の検定、教育介入前後の検定は、SPSS27.0J for Windowsにより解析しました。

その結果、「1週間の内、朝食で主食・主菜・副菜の3つを揃えて食べる日数」は、A群は介入前 3.7 ± 2.7 日、介入後 4.0 ± 2.7 日、B群では、介入前 3.5 ± 2.8 日、介入後 3.9 ± 2.6 日と増加傾向が見られました($p < 0.1$)。C群、D群は介入前後に有意な変化は見られませんでした。

本研究結果より、栄養教諭による朝食教育介入を行った児童は、主食・主菜・副菜が揃った朝食の日数の増加傾向が見られましたが、行動変容までは難しいことが明らかとなりました。今後は、教育介入の期間や教育方法について、更なる検討が必要と思われます。しかしながら、本研究結果は、異なる対象者における朝食指導介入効果について初めて研究した基礎データであり、今後、更なる改良を加え、効果的な朝食指導を進める上でのエビデンスの一つとして貢献できると考えます。最後に、本研究は、静岡県立大学食品栄養科学部教授・桑野稔子先生のご指導のもと、県内栄養教諭等16名で実施したことをご報告いたします。

◆学校給食における食塩相当量を減少させる方法の探索的研究◆

栄養教諭食育研究会 広島ブロック 時光 奈苗

減塩した献立を食べる機会を増やすことで薄味に慣れることができると考え、食塩相当量が2g未満で児童生徒がごはんとおかずをバランスよく食べることができる料理の組み合わせについて研究を行いました。

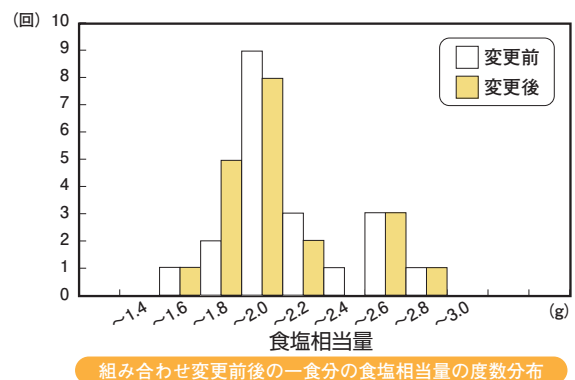
令和2年度の広島市統一献立の学校給食献立案($n=199$)を用い、料理種別の食塩相当量と出現回数、副菜の食塩相当量と脂肪エネルギー比及びごはんの残食率について検証しました。

料理種別では、揚げ物と炒め物を含む献立が食塩相当量2g以下で出現率が高かったです。炒め物の献立では、食塩相当量と脂肪エネルギー比について正の相関関係が見られました($p < 0.0001$, $rs=0.486$)。副菜が炒め物の献立はそれ以外の献立に比べ、食塩相当量が低く($p < 0.05$)、脂肪エネルギー比にも差は見られませんでした。また、食塩相当量及び脂肪エネルギー比をとともに抑える献立として主食がごはん、副菜が炒め物の献立が多く出現していました。副菜が炒め物とそれ以外の献立では、ごはんの残食に有意差は見られませんでした。

この結果から、広島市の献立においては、副菜に炒め物を用いた献立の回数を増やすことで、減塩の献立を増やすことができると推察されました。

そこで、組み合わせの変更によって、食塩相当量を減らすことができるのではないかと考え、20献立を用いて、改善方法を探りました。広島市の学校給食では、炒め物の使用回数があえ物に比べて少ないため、「ごはん・煮物・和え物」の献立2回を「ごはん・煮物・炒め物」に、「丼・油使用の和え物」を「丼と炒め物」に変更することで、食塩相当量が2g未満の献立を児童に提供できる回数を増やすことができました。

今後は、献立の改善だけでなく、減塩献立を給食に取り入れる意図を児童に周知していきたいと思います。



食育調査官 就任ご挨拶

文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課 食育調査官 山上 望

皆様、初めまして。このたび、食育調査官に就任いたしました山上望(やまうえのぞむ)です。

前任の清久調査官の後を引継ぎ、教育の基盤である食育の推進について、学校の先生方をはじめ、多くの関係者の皆様にご理解とご協力をいただき、次代を担う子どもたちの健やかな心身の成長のために微力ながら尽力して参りたいと思っています。

私は、これまで佐賀県で中学校の教諭として勤務し、その後、佐賀県教育庁保健体育課健康教育担当指導主事として学校における食育の推進に携わってまいりました。特に佐賀県では朝食喫食率の向上対策や学校における食育推進拡大事業など、多くの方々のお力をお借りして取組んでまいりました。これらの経験から、食育は学校がチームとして取り組み、さらには家庭や地域等との連携協力によって成立し、結果として、子どもたちの心と体の健やかな成長

へとつながっていくことを学ばせていただきました。

近年では、ICTの急速な進化に伴う超スマート社会の到来や新型コロナウイルス感染症の出現等により、食を取り巻く社会環境が著しく変化し、子どもを取り巻く食環境も大きな影響を受けています。生涯にわたり健やかに生きるための基礎を培う重要な時期における学校での食育の役割は今後益々重要になってまいります。

最後になりますが私自身、学校における食育の推進拡大をはじめ、栄養教諭の配置促進等に向けて全力で努めて参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



第64回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会(鳥取県)のご案内

鳥取県代表者 坂井恭子

第64回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会は、2023年8月3日(木)～4日(金)の2日間、鳥取県鳥取市において開催されます。

会場は、鳥取駅よりバスで約10分、鳥取県庁向かいに位置する「とりぎん文化会館」およびその周辺です。みなさまにとって充実した研究大会となるよう準備を進めておりますので、ぜひご参加ください。

開催にあたり、食育や給食指導に役立つ教材をは

じめ、鳥取の魅力たっぷりのグッズを記念品として準備いたしましたので、ご協力をお願いいたします。

自然に恵まれた鳥取県には、特産の「二十世紀梨」や「松葉ガニ」の他、おいしい海の幸・山の幸がたくさんあります。また、会場近くには観光地として人気のある鳥取砂丘もあります。

2023年の夏は、「食のみやこ鳥取」にぜひお越しください。心よりお待ちしております。



とりぎん文化会館



～記念品のお知らせ～

- ①食品ロス紙芝居(2,500円)
- ②内臓ビブス(2,300円)
- ③トートバッグ(1,000円)
- ④白バラボールペン・マスクングテープセット(600円)
- ⑤梨フルーツらっきょうディップ(500円)
- ⑥スタミナ納豆ふりかけ(350円)



なしっち

都道府県だより

会員の声を形にして

栃木県学校栄養士会は、県内を8分会に分け、分会ごとに課題を設定して研修を行っています。その研修内容は全会員が共有できるよう、全体に発信する機会も設けています。

県全体の活動としては、8分会の代表者で構成される「調査研究部会」を立ち上げ、学校給食における食育推進のための調査研究を行い、冊子にまとめました。全会員の声を集め、その時、多くの会員が必要としているものを作り上げているため、活用度はとても高いです。そして、今年度は、コロナ禍で急速に進んだ学校教育のデジタル化に対応すべく、個別指導で活用できるデジタル教材の作成を行っています。

また、調査研究の基礎となるデータの蓄積も重要と考え、平成19年度から5年おきに児童生徒への食生活アンケートを実施し、指導の効果や児童生徒の変容、また、新たな課題の把握を続け、その結果を本県の食に関する指導のさらなる充実のために役立てています。

今後、益々デジタル化が進み、会員が顔を合わせる機会が減ってしまうかもしれませんが、将来を担う子どもたちのために、会員一同心をひとつにして食育の推進に力を注いでいきたいと思います。

栃木県代表者 久保 光子

三重県栄養教諭・学校栄養員協議会の取組

三重県では、年に3回の研修会を行っています。コロナ禍のため、オンライン開催となりましたが、給食管理や食育について専門の講師を招いての研修は、専門職として資質向上のため会員にとって重要な研修の場となっています。また、調理技術向上のため、県内の高等学校食物調理科の協力を得て調理講習会を行っています。毎年、地場産物や豆を使った料理などテーマを決めて、給食で取り入れられそうな料理を実習しており、レシピには、食物調理科の生徒が担当教諭の指導を受けて考えた料理もあります。生徒の発想の豊かさや真剣に取り組んでいる姿、料理作りに対する姿勢に触れ、自分たちの日頃の取り組みを見直すことができます。栄養教諭や給食調理員を将来の目標にしている生徒もあり、交流のよ

い機会となっています。

8月には、三重県学校給食会と共催で「学校給食における食育推進研究協議会」を会員だけでなく、県内の学校給食関係者、管理職、教諭、調理員など幅広く参加を呼びかけ、開催しています。コロナ禍のため、オンライン開催となりましたが、地域との連携について県内の生産者の実践例の講演などを、職種を超えて学びあう場として実施することができました。

今後、さまざまな関係機関との連携を大切に、子どもたちの健やかな成長を願い、食育の推進に、会員一同励んでいきたいと思います。

三重県代表者 横田 はるみ

学校・家庭・地域から、より必要とされる栄養教諭をめざして

香川県栄養教諭・学校栄養職員研究会では、会員の資質向上を図り研修等を行っています。ここ数年のコロナ禍では、研究会の運営にも大きな影響がありましたが、このような状況だからこそ栄養教諭同士の繋がりを大切に、研究を深めてきました。

現在ではオンライン研修も取り入れ、感染状況を考慮しながら研修会を計画・実施しています。また、全体研修と並行して各地区での研究も進め、各々が抱える課題の解決や地区の特性に応じた研究を行っています。各地区での取組は、年度末の全体研修で報告し、情報共有により県全体の実践につなげていきます。

今年度及び来年度においては、香川県下全域で実施している小児生活習慣病予防検診（血液検査等）を中心とした個別的な相談指導について重点的に研修し、栄養教諭が専門性を発揮しながら個別に寄り添った指導や支援ができるよう計画しています。

最後に、本県においても給食場の統合や大型センター化が進んでおり、会員数が漸減しています。このような状況の中、栄養教諭が保護者や地域、教職員から必要とされる存在になるため、専門性を活かした食育ができるよう、より一層資質の向上に努めていきたいと思います。

香川県代表者 秦 和義